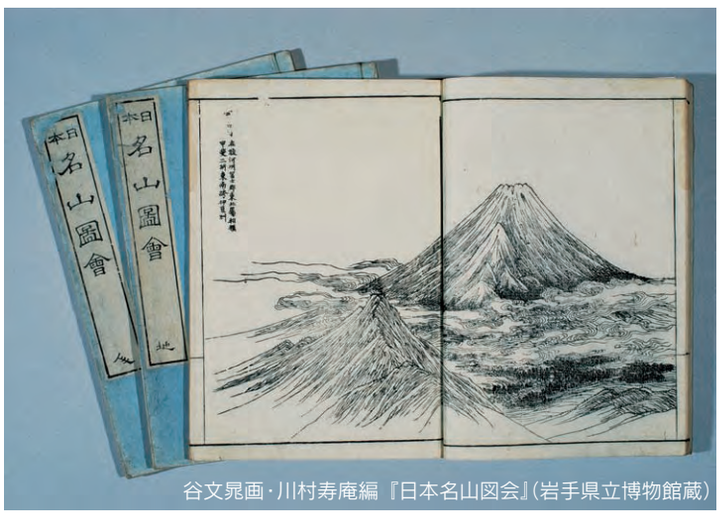
■第60回企画展

『日本名山図会』と川村寿庵

会期：平成20年10月11日(土)～11月24日(月・振替休日)　会場：特別展示室　共催：三戸町教育委員会

秋の企画展は、『博物館だより』114号でご紹介した南部領出身の町医者川村寿庵と、寿庵が出版した山の画集『名山図譜』、その改題本である『日本名山図会』にまつわる展覧会です。

腕は良いが、ちょっと風変わりな町医者川村寿庵と、画塾を写山楼と称した江戸画壇の巨匠谷文晁 —— 二人の出会いから生まれた名作『日本名山図会』の魅力と寿庵の人物像にせまります。



谷文晁画・川村寿庵編『日本名山図会』(岩手県立博物館蔵)

全国から大集合！

Ⅰ『名山図譜』と『日本名山図会』

川村寿庵（?-1815）は大の山好きで、中でも富士山を愛していました。幾度か実際に登りもし、日課は朝一番に屋根上から富士山を眺めることでした。

谷文晁（1763-1840）らが描いた山の風景画も収集しており、『名山図譜』はそれをもとに制作されました。

文化２年（1805）に売り出された『名山図譜』は、文化９年（1812）に『日本名山図会』と改題されてロングセラーとなり、現在は全国の図書館や博物館などに数多く収蔵されています。

展覧会では、本の体裁や奥付などが異なる『名山図譜』と『日本名山図会』を一堂に会し、版木も展示します。

門下に盛岡藩奥医師

Ⅱ 川村寿庵の再発見

川村寿庵は、三戸の御給人(盛岡藩士)の家に二男として生まれました。宝暦８年(1758)盛岡藩医上田永久に弟子入りし、安永２年(1773)江戸へ。江戸で開業した後のエピソードは『甲子夜話』や『皇国名医伝』などに紹介されています。

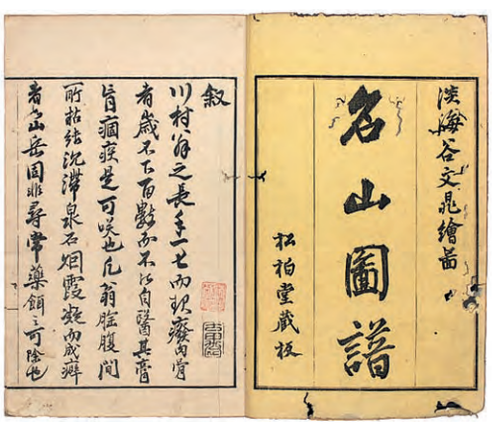
寿庵は錦城と号していましたが、松柏堂とも称したことが最近の調査でわかりました。後に盛岡藩奥医師となった佐々木寿山（1785-1856）が、錦城先生から教わった処方を「増補 松柏堂方彙」(佐々木陽子氏所蔵）としてまとめていたのです。『名山図譜』には「松柏堂蔵板」と記されており、寿庵が『名山図譜』の版権者であったことも明らかになりました。

まだまだ謎の多い人物

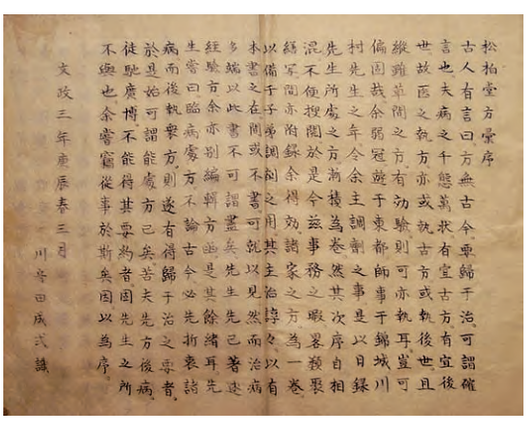
川村寿庵と安藤昌益

安藤昌益（1703-62）は思想家として知られ、「自然真営道」(東京大学附属図書館所蔵）の著作が有名です。現在の秋田県大館市に生まれ、一時、青森県の八戸で医師として活動していました。

寿庵こと錦城の医論を弟子が筆録した「医真天機」（京都大学附属図書館所蔵）には、錦城が昌益の医術を高く評価している様子が記されています。また、寿庵の二男真斎は、昌益の医学の良き理解者、継承者であり、著作も残しています。さらに、寿庵、真斎父子を知る千住の橋本律蔵は、明治期に昌益の「自然真営道」を所蔵していました。寿庵父子と昌益との関係には、まだ謎の部分があります。



『名山図譜』1805年刊（信州大学附属図書館蔵）
＊見返しに「松柏堂蔵板」とある。



佐々木寿山（川守田成弐）
『増補 松柏堂方彙』 1820年（佐々木陽子氏蔵）

安藤昌益 稿本『自然真営道』
（東京大学附属図書館蔵）

旅と山を愛する人々

Ⅲ 『名山図譜』の成立とその周辺

川村寿庵は、谷文晁より30歳ほど年上と考えられますが、寿庵は文晁の画才に惹かれ、文晁は寿庵の風致を慕い、旅と山を愛する者同士として、親しく交際があったようです。『名山図譜』は文晁の作ですが、山の形は寿庵が指図したと伝えられます。

さて、『名山図譜』(増補版）には山の絵が90図収められていますが、文晁がすべての山を自分で実際に見て描いた訳ではありません。中には、弟子や弟が旅の途上で描いた絵をもとにしたものもあります。『名山図譜』からは、文晁とその弟子たちの足跡や、当時の人々の旅と山への憧れもかいま見えます。

シーボルトの“NIPPON”に岩手山！

Ⅳ 『名山図譜』から新たな風景へ

『名山図譜』の卓越した山の描写は、他の絵師たちの手本となり、新たな風景画へと展開していきます。

文晁の弟子ばかりでなく、浮世絵師たちもその描写に学び、武者絵の背景に用いたり、風景画の参考にしたりしました。

19世紀に日本を訪れたドイツ人医師シーボルト（1796-1866）は、日本の地理や歴史等に関する学術書“NIPPON”の出版に際し、『名山図譜』から実に19図を採用しています。オランダの石版画家が描いたものですが、中には「巌鵬山（岩手山)」や「御駒山（駒ヶ岳)」の図版もあります。岩手の山が19世紀ヨーロッパで紹介されていたのです。

岩手の山はどこから描いた？

『日本名山図会』と岩手の山々

『日本名山図会』には、岩手の山が６座あります。岩手山、姫神山、早池峰山、七時雨山、南昌山、駒ヶ岳です。これらの山の絵を、どこから見て描いたのかは気になるところです。

盛岡藩士の「三閉伊日記（さんへいにっき）」には、早池峰山は宮古の下村から見て描いたに違いない、として挿絵が入っています（長沢文作筆ヵ)。現在その場所は木が生い茂り、まったく見通しがききませんが、地元の方のお話では、木がなければそんな風に見えるだろうとのこと（表紙参照)。

描写地点探しも、『日本名山図会』を見る楽しみの一つです。

（主任専門学芸員　齋藤里香）

谷文晁筆「熊野舟行図巻」(部分）1804年　山形県指定文化財
(㈶山形美術館蔵 ⑪長谷川コレクション)

『日本名山図会』1812年刊 (岩手県立博物館蔵)より　上
巌鵬山（岩手山）
シーボルト“NIPPON”1852年刊 (国際日本文化研究センター蔵)より　下
IWAWASI-JAMA（岩手山）

●講演会　当日受付　聴講無料　13:30～15:00

11月３日(月･祝)　「名山へのまなざし―山を見る、山に見られる」
齋藤 潮 先生（東京工業大学大学院教授）

11月８日(土)　「谷文晁の旅と画業」
河野元昭 先生（秋田県立近代美術館長）

●展示解説会　当日受付　要入館料　14:00～15:00

10月13日(月･祝)、11月２日(日)　当館学芸員

●講　座　当日受付　聴講無料　13:30～15:00

10月19日(日)　「川村寿庵の再発見」
齋藤里香（当館学芸員）

10月26日(日)　「盛岡藩御役医田島家と三戸」
相馬英生氏（三戸町立図書館主査）

11月16日(日)　「安藤昌益の医学と川村寿庵、真斎父子」
石渡博明氏（安藤昌益の会事務局長）

11月23日(日)　「『名山図譜』と『日本名山図会』」
齋藤里香（当館学芸員）